

ぴゅあ3館の講座情報満載！

ぴゅあ

山梨県立男女共同参画推進センターは、男女共同参画社会の実現のため、男女共同参画に関する学習の機会と交流の場を提供しています。

県内にはぴゅあ総合、ぴゅあ峡南、ぴゅあ富士の3つの施設があります。愛称の「ぴゅあ」は、「男女共同参画社会をめざし、新鮮な感覚で、いきいきはつらつと行動する拠点」という意味です。



カジダンイクメン写真展より、
「お着替えしましょ。」都留市・坂本さん

§ Contents

* 地域活動レポート ラ・ペジブル 藤森晴江さん * 事業インフォメーション *ぴゅあ講座レポート (ぴゅあ峡南)

山梨県立男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

●ぴゅあ総合

〒400-0862

甲府市朝気 1-2-2

Tel. 055-235-4171 Fax. 055-235-1077

●ぴゅあ峡南

〒409-2305

南巨摩郡南部町内船 9353-2

Tel. 0556-64-4777 Fax. 0556-64-4700

●ぴゅあ富士

〒402-0052

都留市中央 3-9-3

Tel. 0554-45-1666 Fax.0554-45-1663

●山梨県女性の応援サイトでも講座情報を発信しています。→ <http://www.pref.yamanashi.jp/challenge/index.php>

ぴゅあ総合 HP → <http://www.yamanashi-bunka.or.jp/pwm/topicsogo.html>

ぴゅあ峡南 HP → <http://www.yamanashi-bunka.or.jp/pwm/topicskyonan.html>

ぴゅあ富士 HP → <http://www.yamanashi-bunka.or.jp/pwm/topicsfuji.html>

～コミュニケーションは人の思いを、 その人の気持ちになって聞くこと～

藤森晴江さん（家庭教育支援チーム ラ・ベジブル代表・親業訓練インストラクター）



藤森晴江さん

今月号では、地域で活躍する女性として、親業訓練インストラクターで、家庭教育支援チーム「ラ・ベジブル」の代表、藤森晴江さんにお話を伺いました。

藤森さんは県内の小学校教諭として長く勤められた後、「親業訓練インストラクター」の資格を取得。文部科学省の社会教育アドバイザーとして国の事業にも携わりました。その後、「ラ・ベジブル」を発足させ、「相手の気持ちを受け止め、その時のその時の気持ちに寄り添う関わり方」を基本に、家族の大切さや子育てについて伝える活動を県内各地で行っています。

先日の「ともすく広場」の様子を見せていただいて、参加者がとてもリラックスした良い雰囲気でお互いの考えや気持ちを話し、理解しあいながら、講座が進んでいったのが印象的でした。

講師としてお話する講座という形では、参加している人たちや聞いている人たちの気持ちというのは、なかなか解らないことが多いと思うのです。しかし、あんなふうに、みなさんにもお話しいただき、その考えに感想を述べ合ったりしていくと、参加者がどんどん生き生きとしてきますね。少しずつ、心を開いて、自分の経験や悩みについて自然に語り合

える場になっていきます。

私たちが最初にこういう活動を始めたころは、「地域で・・・」という思いが強かったものですから、公民館や自治会館などに場所を設定したことも多かったのです。ただ、参加者同士に知り合いがあると、話しにくい場合があることが解ってきました。もう少し広い地域から、お互いを知らない同士に参加してもらうことが、良い方に作用したりするのです。たとえば、河口湖に住んでいる方が都留での集まりに参加して、気兼ねなく話をしたり、他人の話を聞くことによって自信を持てるようになってきたりすることが解ってきました。そういった雰囲気の中から、私たちも学ぶこともできますし、いろいろなことを持ち帰ることができるのです。ですから私たちラ・ベジブルは「支援活動」をしているとは考えていません。参加してくださる方々と、同じ目線で考えることを心がけてきたのです。

講座では自分の子育ての話だけではなく、親との関係などにも話が及んで、どんどんと深まっていきましたね。

そうですね。幼児期から成長し、反抗期があり、大人になっていく過程で、親子の関係にも、夫婦の関係にも、家族が人間関係である以上、さまざまな悩みがあって当然です。たとえば、成人した女性が、何かの出来事をきっかけに母親との関係に悩みを抱えてしまうこともよくあるのです。そして、そのことについて、悩みや状況を話し始めたりすることもあります。それに対して、母親の年齢に近い参加者が、自身の娘さんとの似た経験を話してくださったり、他の参加者が、その悩みに寄り添ったお話をし、気持ちを通じ合わせることで、悩んでいることが柔らいだりするのです。必ずしも、正しい答えや具体的な解決策を見つけることは目的にはしていないのです。

私はこういった場を、お父さんたちの間でも持てれば良いなあと考えています。父親同士が家庭のこと、妻や子どもとの関係などについて、率直に語り合う機会があれば、いろんな話の交換ができ、その中から家族というものへの理解を深めることができると思うのです。また、同じように、夫婦で参加して、いろんな話をしてみたいという希望も聞きますし、おばあちゃん世代の集まりも良いと思っています。今秋には富士河口湖町の企画で、おばあちゃんの会も開きます。家族にはいろんな形があります。祖父や祖母の世代を含めると、お母さんたちの悩みの中によくあるのが、おばあちゃんが孫がかわいいあまり、世話を焼きすぎて困るということがあります。実は私も二人の孫がいるおばあちゃんだから気をつ